

世界農業遺産国際スタディ・プログラム 研修レポート

総論

1. 研修に参加する前に抱いていた考え・その後の変化

私は大学で観光を専攻しているということもあり、イタリアの観光について非常に興味を持っていました。イタリアには世界遺産が多く残されており、「見る」観光が主な観光内容だと考えていました。しかし実際に訪れてみると、イタリアには様々な観光の形があることに気づかされました。特にイタリアでは、「食」をメインとした体験型観光が発展していると分かりました。イタリアではオリーブやワインが有名です。実際に私たちはアッシジにあるオリーブ農園を訪れ、現地の方からオリーブオイルについての説明を受けました。そこでアッシジ地方におけるオリーブオイルの歴史や栽培方法について学び、テイスティングも行いました。その後オリーブオイル販売が行われ、これらのことからイタリアでは「体験型観光」の形が完成していると分かりました。

2. 研修の学び・気付き

この研修で最も印象に残ったことは、1つの製品を多くの用途で使用していることです。例えばオリーブオイルはイタリアの代表的な製品の1つです。研修内で訪れたオリーブオイルミュージアムでは、オリーブオイルの歴史について学びました。ファームステイ先では食事とともにオリーブオイルが出され、地元の人々にとって身近なものであると気づかされました。またオリーブオイルは調味料という役割だけでなく、化粧品としても利用され販売もされていました。事前課題では、オリーブオイルが持つ鎮静特性を利用したバームやクリーム調整の材料としても使用されていることも学びました。これらのようにオリーブオイルという1つの製品から様々な使用目的が生まれていることが非常に印象的でした。

3. それを今後どう活かしていくか

オリーブオイルを用いて行われている様々な用途を、能登の食材や製品にも利用し産業の発展に活かしていくべきだと考えました。そのまま販売するだけでなく、里山・里海の食材、調味料を料理に使用したり、イノシシの皮を革製品として利用していくなど製品の形を変えた販売を促進することで能登全体の発展にもつながると感じました。身近なものに能登の製品を取り入れることで、「能登」という名前も広まるのではないかと考えました。実際に金沢市では金箔を化粧品として利用している例もあるので、石川県全体で連携することも必要だと考えます。

4. 将来の夢

本研修を終えて、海外の人向けの新たな観光の形を提供したいと考えるようになりました。イタリアに訪れてみて、オリーブ農園の風景や町並みは非常に目を引くものでした。オリーブ農園の近くには多くの家が並んでいて、実際にそこで暮らしている人がいるということ自体に驚かされました。現地の人々にとっての日常が、私たちの非日常であり心を動かすものになるのだと学ぶことができました。これらの経験から、「体験型観光」と「滞在型

観光」の観点から日本の日常を海外の人向けに提供したいと思いました。

5. 次期参加学生へのメッセージ

私自身初めての海外ということもあり、この研修に参加するのを少し迷っていました。しかしこの研修に参加したおかげで、日本では感じるできない文化や暮らしの違いを学ぶことができました。また国際機関を訪れ、実際にお話を聞くことで世界に目を向けて社会問題について考えることができるようになりました。貴重な経験ができたこの研修は自分自身の大きな経験になると思います。